

## 山口愛果：エクスカーショ参加記

2006年3月29日、日本藻類学会第30回大会エクスカーションに参加させていただきました。今年は鹿児島県水産技術開発センターと知覧町の知覧特攻平和会館、武家屋敷群を訪ねるという内容でした。私はエクスカーションに参加するのは今回が初めてで、楽しみにしていました。それでは、当日の出来事や感想を書かせていただきます。

朝8時、鹿児島大学工学部前からエクスカーション参加者と水産技術センター主催の「第3回亜熱帯性ホンダワラ属藻類の分類に関するワークショップ」に参加される方々を乗せた観光バスが同センターへと出発しました。道中のバスの中では、鹿児島大学の野呂先生が地域の詳しい説明をたくさんしてくださり、楽しく過ごすことができました。天気が良く、海岸に沿った美しい景色を眺めながらのドライブでした。水産技術開発センターには少し早く着いたので、しばらくロビーを見学させてもらいました。学校や老人ホームの方達の見学を受け入れるなど一般の方々にも開かれた施設ということで、白い砂の上に様々な貝殻がきれいに展示してあったり、丸木舟や漁具が展示されていたりして、興味を惹く楽しいロビーでした。まず、会議室でセンターの概要を説明していただき、その後施設を案内してもらいました。とにかく敷地が広くて室内にも屋外にも大きな培養槽をずらっと並べてあるのが微細藻類を小さな容器で培養している自分にとっては新鮮でした。建物は平成16年4月にできたばかりで新しく、採集に行ってウェットスーツのまま研究室に戻れるように考えて設計されており、それが功を奏して利用者を使いやすいと評判だそうです。これからも長く利用者や地元の人に愛される施設であってほしいと思いました。

ワークショップの方々と別れ、エクスカーション組は知覧町へと向かいました。知覧町は薩摩の小京都と言われる武家屋敷群や茶畑で有名な美しい町ですが、太平洋戦争末期には特攻隊の出撃基地がおかれた過去をもつ町でもあります。知覧特攻平和会館はたとえ丸一日や二日を費やしても全てを見ることが不可能なほど多くの関係資料や特攻隊員の遺品を展示してあります。最初に会館の方が私達にお話をしてくださったのですが、パネルを何枚も使いながら流れるように話されるので、この方は今まで何百回もこの話を語り続けて来たのだなと思いました。展示されていた一通一通の遺書にどれほどの想いが詰まっているかを考えると重い気持ちになりました。知覧特攻平和会館を後にし、次は武家屋敷群へ向かいました。ここは、一般公開されている家だけではなく、人が住んで生活している家もあります。どの家も豪華ではない



エクスカーション（鹿児島県水産技術開発センター）：9t水槽中の「ガラモ場」を観察する参加者

のですが、庭園の雰囲気や家のこぢんまりとした感じに興味の良さを感じました。楽しんでいるうちに一日の予定はあっという間に終わってしまい、帰りは鹿児島中央駅と鹿児島空港まで送っていただき、私は鹿児島中央駅で皆さんと別れました。このように学会最後の一日を有意義に過ごすことができ、今回はひと味違う思い出ができました。素晴らしい予定を組んでくださり、事前の細やかな連絡から当日も温かくご案内してくださった鹿児島大学実行委員会の方々には頭が下がります。本当にありがとうございました。また、私たちのためにプレゼンテーションやご案内をしてくださった鹿児島県水産技術開発センターと知覧特攻平和会館の方々、バスの運転手さんに感謝いたします。そして、一緒に時間を共有した参加者の皆様、良い時間をありがとうございました。

(北海道大学大学院理学研究科)